第３回町民検討委員会
ワークショップ
結果報告書

別海町

目的

　2009年度（平成21年度）に策定された第６次別海町総合計画が、2018年度（平成30年度）をもって終期を迎えます。
総合計画とは、別海町が目指すべき将来像を、10年先を見据えて総括的に策定するものであり、その策定に住民の意見は欠かせません。
　本ワークショップは、新たな総合計画を策定するにあたり、住民の方々のご意見を広く反映すべく、全５回を開催するものです。
　第３回となる今回のワークショップでは、「歴史・文化」、「産業」、「観光」、「雇用」の４つの分野について、現状の課題とこれからの別海町が目指す姿の意見交換を行い、ワークショップでの住民の方々のご意見の中から、新たに策定する別海町総合計画にふさわしい意見を選考し、反映させていただきます。
　また、このような話合いを通して、まちづくりへの興味・関心の醸成、協働によるまちづくりにつながれば幸いです。

概要

- 日　　時：平成30年６月25日（月）　19：00～20：30
- 場　　所：別海町役場庁舎１階　101・102号会議室
- 対　　象：第７次別海町総合計画町民検討委員
- 主　　催：別海町役場　総務部　総合政策課
- グループ：３グループ（Ａ班６名、Ｂ班６名、Ｃ班６名）
- テ ー マ ：元気な別海町

当日のスケジュール

開会あいさつ （19：00～19：05）

ワークショップのやり方とルール説明
（19：05～19：10）

ワークショップ討議
「元気な別海町」
ディスカッション（19：10～19：40）

休憩（19：40～19：45）

ワークショップ討議
「元気な別海町」
ディスカッション（19：45～20：15）

各グループ発表（20：15～20：25）

まとめ・閉会　（20：25～20：30）

A班

現状や実体験

歴史･文化

- 郷土資料館
- 野付半島
- 知る機会が少ない
- 別海町の魅力を知ることが重要
- イベント・行事・団体に所属すると文化に触れることができる
- １度外に出ると別海町の魅力に気づく
- 情報をどこで得たらよいかわからない

産業

- 後継者不足（酪農）漁業はこれから不足する
- 嫁問題

観光

- 何もないことが魅力
- 自然豊か
- おみやげ買えるところがない（アンテナショップ的な）（海・山のもの）

雇用

- 働くところがない少ない
- 求人がない（知り合いのつて）
- 住み込みが多い（酪農）
- 酪農家は雇われたことがないから、従業員のことがわからない

理想の想像

歴史・文化

- 情報発信
- 幅広い分野を展示・PR
- 期間展示（特別）をしてみては
- 体験→知る
- サークル・団体の紹介が必要
- パンフ・ポスター設置場所を増やす（コンビニ）

観光

- 民泊（空き家）
- 体験ツアー
- 宿泊先（パイロットマラソン）

産業

- 酪農と漁業の情報共有が必要
- アパート等から通勤→住むところと仕事を分ける
- ジビエ
- 市街地に道の駅
- 複合的な施設
- 子ども達の遊べるスペース
- 直売所

市民ができること行政がすべきこと

産業

- （JA）でアパート民間
- （行政）住宅のあっせん
- プロモーションビデオの活用（イベント・フェア）
- ブランド開発（酪農・漁業）

観光

- バスの整備（空港から）
- 観光船での移動（ルート）

A班のまとめ

産業に関して、農家の従業員のためにアパート等を設けた方が良いのではないか。集合住宅に住むことで、他の従業員との交流が生まれる。また精神的にも働く場所と住む場所は分けた方が良い。

行政としては、農家等の従業員に空き家などを紹介してはどうか。

観光に関しては、おみやげを買える場所がない。アンテナショップのような「ここに行けば全て揃う」というような店舗が欲しい。また、宿泊施設が少ない。ホテルを新たに作ることは考えづらいので、民泊を活用できないか。特にパイロットマラソンの時は、釧路など周辺の街に宿をとって参加する人もいる。別海町に滞在して欲しいのなら宿泊の手段を充実させたほうが良いという意見が挙がった。

B班

現状や実体験

産業

- 漁業者は組合員しかなれないがまだ後継者がいる
- 加工場には人はいない 地元の若い人はすぐやめる 中国→ベトナムへシフト
- 団体としての活動が看板だけになっていないか
- 現状維持でよいのか

観光

- フットパス 旧標津線を利用したもの PRはしたが関心がない
- フットパス 本州の若い女性 喰いつきがよい
- フットパス 管理が大変（高齢等）
- 旧奥行駅まで バス利用 お金がかかる 歴史的なもの 家畜にもあえる 農業的な風景
- 農家民泊だとすると お客を迎えに行く 時間がとれないので お金をとれない
- 野鳥にあえる シカもいる 風景がすばらしい
- 観光も浜・海の方だけ 山にも魅力がある
- 市街地の宿泊施設の少なさ
- 尾岱沼でも宿泊は少ない 通過型
- 宿泊施設が少ない ファームイン

産業

- 酪農を体験したい人はいっぱいいる
- 酪農体験 フェイスブックから 若い女性も来る
- 別海町が生乳生産量日本一を知らない 町外の人が誰も

雇用

- 若い女性は バリバリ働きたくて来る
- さくてい師 人工受精師 女性が多い
- ネットで 農家が個別に 募集かけて失敗する
- 農業のすそのが広い コントラヘルパー じゅう医
- 農業系の大学生を受け入れる
- 酪農家と同じ生活をしてみて 就農につなげたい

理想の想像

観光

- 若い人が ひっぱって ほしい
- シーニック バイウェイ 週末でもやれる ようにしたい
- 観光 町民に うったえるもの
- 口コミ・SNSの力
- 都会では できない体験
- 受入側自身が 楽しむことが 大事
- 女性が多いと 町が あかるくなる
- おもしろい ツアー
- お金をくれるような観光・体験

産業

- 産業と観光を結びつける

市民ができること行政がすべきこと

観光

- 町民から運動をする 奥行駅 公園にする
- 道立公園内は 規制がある

雇用

- 別海は住む場所を探すのが大変なので 就職する人が流れる
- 働ける場所も 住む場所もあるが、需給が結びつかない
- 不動産業的な ものが必要
- 農協 漁協の役割が 大きい
- 町全体的で 受け入れる 体制
- 農家も色々な けいたいがあるので 紹介できる システム作り
- 仕事先のなやみを きける団体が必要
- 行政で 新しくきた方の窓口 になる
- 受け入れ窓口の 一本化

B班のまとめ

観光に関しては、奥行駅やバスなどの観光資源はあるが維持が大変という意見や、宿泊施設がなく、観光客が通過してしまうという声が聞かれた。

産業については、酪農・漁業において、加工の現場での人手不足が深刻だという意見があった。

農家では個人的に求人を出すが、相性が合わず雇った人が辞めてしまうことが多いため、「どこの農場でどんな人が働いているのか」を把握したり、求職者に対して相性のよい農家や別の職種を紹介するシステムがあると良いのではないかという意見が挙がった。

C班

現状や実体験

歴史･文化

- 旧駅舎の利活用がされてない
- 別海の歴史について学校で学ぶ機会が少ない
- 歴史遺産の見学には町外の人が参加することが多い
- 地域の歴史の語り部が減ってきてる
- 町について町の人が語れなくなってる

産業

- テナントが無く、補助金の額が少ないため、起業がし辛い
- 買い物環境が市街地に偏ってる

観光

- イベントのほとんどが海に偏ってる
- 山側で遊べるところがない

雇用

- 情報がない
- 退職率高い特に農家さん
- 外国人労働者が多い
- 人材不足
- 再雇用を拒む方々が多くて人手不足

理想の想像

産業

- 行商をやる
- ネットでの注文システムを作る

観光

- 山側にも道の駅を！
- 姉妹都市独・バッサーブルグとの交流

市民ができること行政がすべきこと

歴史・文化

- 簡易気動車の走行・体験乗車

産業

- 地域活性の「課」を作る
- ネットワーク環境の整備

雇用

- 就労ビザで外国人労働者の長期雇用
- ボランティアガイドの雇用を積極的に
- 高齢者向けの仕事を整備
- 友好都市との雇用に関する情報交換
- 町で仕事の情報をとりまとめる

C班のまとめ

観光について、奥行にある簡易気動車の走行・体験乗車を将来的にできないか。行政に予算付けをしてもらいたいが、行政を動かすには町民による協議会等を作る必要がある。

産業に関しては、役場に地域活性のための課を作れないか。町内には地域ごとに町内会や協議会などのコミュニティがあるが、それらを取りまとめたり、話を聞いてもらうための課があると良い。

雇用については、町に働きに来る人はいるが、長続きしない。日本人の求職者を探すのも大切だが、研修という形ではなく、就労ビザを活用した外国人の長期従業者の受け入れを町として行ってはどうか。また、海外の姉妹都市との人事交流や、雇用に関する情報交換を行ってはどうかという意見が挙がった。